

# 集落営農かわら版

平成22年5月15日 VOL. 13  
大分県西部振興局農山村振興部  
大分県集落営農推進西部支部

年明けから説明会が開催されていますが、改めて要点を紹介します。  
加入には申請が必要です。(申し込みは6月末まで)。モデル対策には大きく2つの事業があります。

## ①米戸別所得補償モデル事業 (水稻の作付面積に対する助成)

○交付単価 (全国一律: 10a当たり) ○交付対象者: 「生産調整」を達成(集落達成含む)した販売農家

定額部分	1.5万円 恒常的なコスト割れ相当部分の助成
変動部分	22年産の販売価格が標準的販売価格を下回った場合にその差額を算定

・集落営農組織、かつ、水稻共済加入者  
(共済未加入の場合は、21年度の出荷・販売実績がある方)

注意: 調整水田などの不作付地がある方は改善計画を作り、認定を受ける必要があります。

○交付対象面積: 主食用米の作付面積から一律10a(自家飯米や縁故米等該当分)を控除した面積

## ②水田利活用自給力向上事業 (水田転作作物に対する助成)

麦、大豆、飼料作物	3.5万円
新規需要米(米粉用、飼料用、稲WCS)	8.0万円
そば、なたね、加工用米	2.0万円
その他作物(県一律)	3千円~2.5万円
二毛作助成	1.5万円

二毛作とは、「米+戦略作物」、「戦略作物+戦略作物」の組み合わせ(戦略作物: 麦、大豆、飼料作物、新規需要米、そば、なたね、加工用米)

○交付単価は全国一律(10a当たり)

○交付対象者

対象作物を作付けし、収穫・出荷を行う人

(捨て作りは対象外、出荷の証明が必要)

## ◆その他作物の取組をしてみませんか?

・主要な品目のみの交付単価を記載しています。、詳細は役場、JA等と相談して下さい。

25千円	トマト、白ねぎ、キク、トルコギキョウ
20千円	さといも、きゅうり、かぼちゃ、なす、ほうれんそう、いちご、小ぎく、かぼす、小豆等
15千円	玉ねぎ、オクラ、かんしょ、チンゲンサイ、キャベツ、ホオズキ、ブルーベリー等
10千円	レタス、せり、すいか、とうがらし、白菜、インゲン、春菊、かすみ草、わさび等
5千円	その他豆類、ふき、らっきょう、さやえんどう、茶、いちじく、ばれいしょ、しそ等
3千円	その他の野菜、その他の花き、その他の果樹、その他の作物、地力増進、景観作物

低コストのため、  
疎植を実施しましょう!

疎植とは、田植時に通常より株間を広げる栽培法です。坪当たり50株(30cm×22cm)を目標に株数を減らしましょう。(但し、冷や水の当たるほ場では、広げすぎは要注意です。)

<メリット> 苗箱、土、種子量、育苗スペース、種子消毒、苗箱施薬を減らせます。  
播種、育苗、田植えの労力を減らせます。

<収量、品質について> 収量はほぼ同程度、外観品質は同程度です。(食味もほぼ同じです)

## 平成22年度から大きく農業政策が変わります 集落の将来を見据えた集落営農を考えましょう

集落の農業を守り発展させるためには、話し合いと集落営農の組織化が重要なことです。

中山間地域等直接支払制度の第3期や戸別所得補償制度などの施策に取り組む際に、集落内に話し合いの仕組みがあると助かります。集落の営農活動を効果的・継続的に行うには、基本となる営農組織を整備しておくことが重要です。

平成19年から始まった水田経営所得安定対策などの農業施策では、個別農業者に加えて、集落営農組織が対象農業者として明確に位置づけられています。

各種施策(補助事業)を活用する際にコストや効率を考えた場合、個人よりも共同で取り組んだ方が有利です。個々での営農が難しい農家が営農を維持・発展させていくためには組織が必要となります。

今年度から始まる中山間地域等直接支払制度の第3期では、10割単価の選択要件に「集団的かつ持続可能な体制整備(集団的サポート型)」が追加され、小規模・高齢化集落支援加算が新設されるなど、地域で支え合う営農の取組をますます重要なものと位置づけています。

集落営農とは、個々の営農の悩みを集落の営農の課題として皆で話し合い、地域の営農を維持発展させようとする行動だと考えられます。まず、「営農の問題はこの場で話し合おう」と皆で参加する場(組織)を作るところから始まります。

きちんとした話し合いのルールづくりができたときが集落営農組織の始まりです。最初は、集落で必要としていることから取組を始めればよいことです。

(取組事項の例)

- ・生産調整や農地基盤(農道、水路)の維持管理方法などを話し合う(取り決める)  
(事業の導入や農地の活用方法などの話し合いの場として)
- ・コスト低減のための共同利用施設、機械の導入や利用方法を取り決める
- ・農作業の受委託の約束を取り決める
- ・さらに進んで、共同で取り組む生産活動  
など、少しずつステップアップして行けばよいのです。

本年の2月から3月にかけて、相次いで集落営農組織が設立されました。集落営農組織には地域それぞれの実情に合わせて色々な形があります。

皆さんの集落でも、これからの地域の農業を維持・発展させるため、今回設立された営農組織の事例を参考に、組織の設立について話し合ってみませんか。

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部

監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL: 0973-22-2585 FAX: 0973-23-2219

## 中山間協定を母体に農作業受委託部門を組織化した事例

### 《堂尾地区農地保全組合作業受託部会》

日田市の堂尾地区では、中山間地域等直接支払制度の活動主体である農地保全組合が地域の農地維持に取り組んできました。

平成21年6月に実施した集落活性化を図るためのアンケート調査の結果、高齢化による担い手不足が深刻であることがあきらかとなり、以来、視察研修会や勉強会を重ね、組織的な作業受託による持続的な農地の保全や活性化の方向を検討してきました。

その結果、平成22年3月17日に農地の保全と効率的な農業生産を目的に、農地保全組合の下部組織として堂尾地区作業受託部会が設立されました。

役員の中には、自らオペレーターとしても活躍が期待される方もいます。また、農地保全組合員以外の農家についても準組合員として受け入れ、作業を受託することとなり周辺地区の農地保全も期待されます。

水田が基盤整備され、受託組織も設立し水稻の低コスト栽培の条件は整ったこととなりますが、疎植をはじめとした低コスト技術や補助事業等を活用した機械導入等に取り組んで行くこととしています。

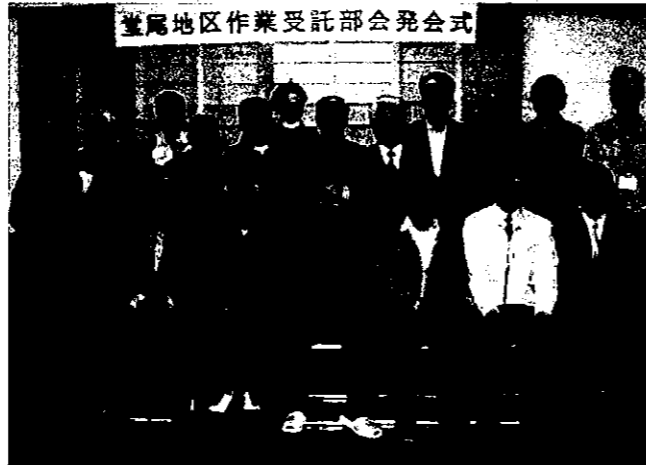
## 地域の担い手を中心とした事例

### 《えびす営農組合》

天瀬町出口地区においても高齢化等により担い手不足が深刻で、比較的規模の大きい担い手農家への受託が進んでいます。高齢化の進展とともに今後急激に作業委託の増加が予想され、担い手農家に全ての委託を任せることは不可能です。このため、将来に備えた体制づくりの一步として、オペレーターを兼ねた担い手を中心として「えびす営農組合」が3月26日に設立されました。組合員は22名で、組合員の水田面積は約9haです。「えびす営農組合」の「えびす」は地区に流れるえびす川にちなんでの命名です。

効率的な農作業ができるように、オペレーターが相互に協力し、受託作業の調整や農地の利用調整を行うほか、補助事業等を活用した機械の導入や新たな中山間地域等直接支払制度の取組も検討していく予定です。

発足1年目の組合としての活動予定は、多くありませんが、地域の水田を守るため、検討を重ねながら着実に前進を進めていきたいとのこと。



## 都市型の新しい取組みを目指す事例

### 《城内維新営農組合》

日田市内の市街地である上城内及び城町の農家で構成されています。市街地といっても中心部から少し離れば水田は、けっこう多いものです。

今年1月の農家の意向アンケート結果から、市街地の水稻農家も山間地の農家と同じく農業従事者の高齢化が進んでおり担い手が不足し、耕作放棄や宅地化が進んでいくことが危惧されました。

このため、有志で助け合いの組織を検討し今年3月27日に営農組合が設立されました。

共同育苗や作業受託のほか、狭い水田でも有効に活用するための都市型農業のあり方として農業体験農園等の独自の活動も検討していく予定です。

田植え後には、遊休農地の巡回チェックを行い、組合での有効活用を検討しています。

組合員戸数は、設立取組みから3か月しか経っていないため、まだ16戸、組合員の水田面積も7haと小規模ですが、活動が充実してくれば戸数はまだまだ増えそうです。



## 圃場整備を契機に話し合いから組織営農を探る事例

### 《朝日地区ほ場整備組合》

日田市の小迫、朝日、君迫地区では、平成21年度から、ほ場整備面積が43haに及ぶ大規模基盤整備に取り組み、昨年5月に朝日地区ほ場整備組合が設立されました。ほ場整備の推進・設計と並行して集落営農法人の設立推進を行っています。

将来の法人経営の安定化には、基盤整備後の水田での機械の作業効率を上げることが必要で、そのためにはほ場の大区画化が必須です。

視察研修会や勉強会を開催しながら、組合員の理解を深め、組織への作業委託や利用権設定、ほ場の交換等の希望をとりまとめています。また、地区内の大規模農家と共存共栄していく営農組織のあり方も検討中です。

地下水位が高い水田が多いため、将来の新規需要米による組織的転作を考慮して、飼料用米の試作も今年を行う予定です。

すでに、話し合い組織としての活動が始まっています。



「(農)みしま」(豊後大野)での視察研修会



「(農)よりの郷 橋津営農組合」(鞆)での視察研修